



ご当地 **よ坊さん** 茨城

茨 歯 会 報

No.571

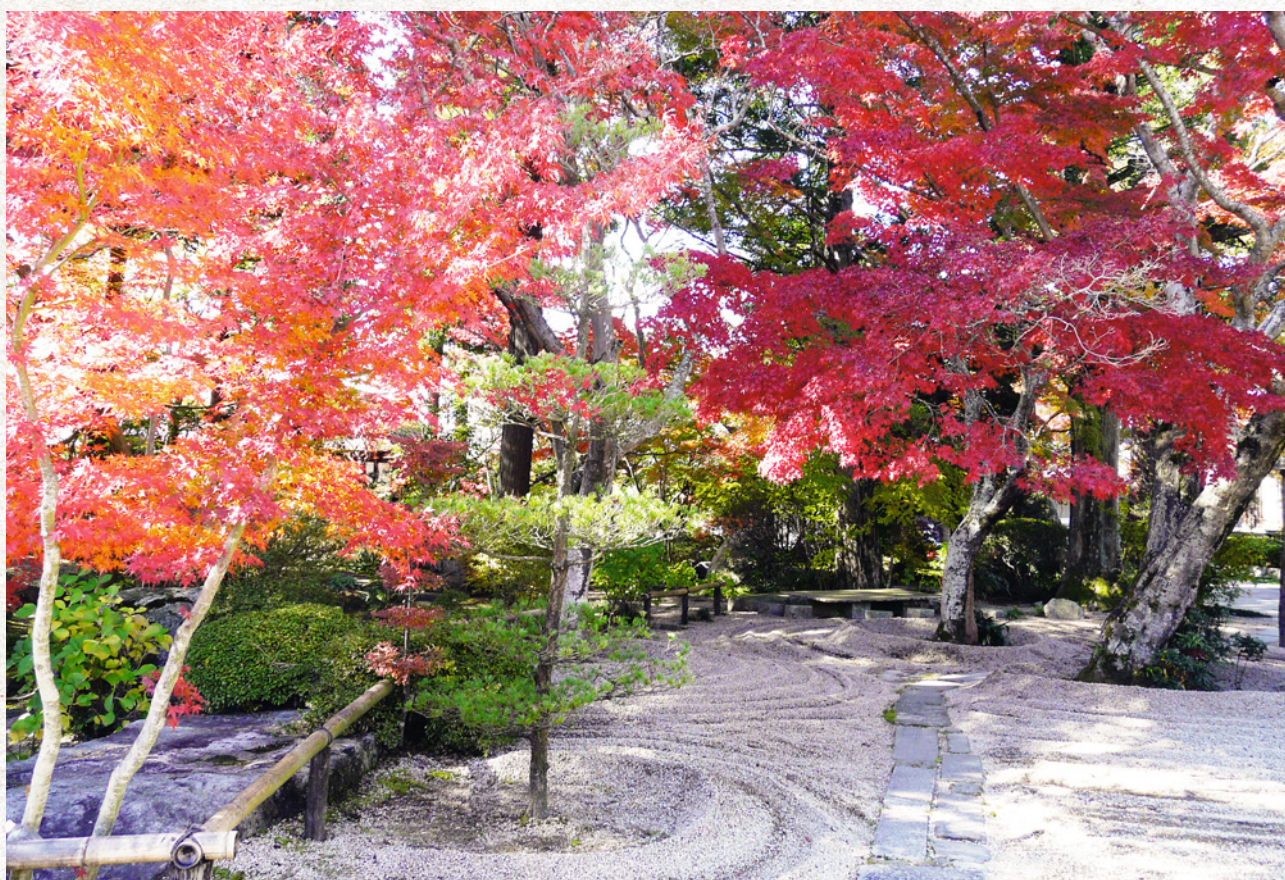
茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

November

2016

平成28年

11





Contents

デンタルアイ	1
征矢 亘	
理事会報告	3
会務日誌	5
学術委員会だより	10
地域保健委員会だより	12
医療管理委員会だより	16
学校歯科委員会だより	19
センターだより	22
社会保険委員会だより	24
専門学校だより	28
地区歯科医師会だより	30
本間 一哉	
寺澤 秀朗	
同好会だより	35
橋本 昭	
寄稿	36
綱川 健一	
リレー通信	38
舘 勝成	
レディースコーナー	40
上野 美奈子	
会員の異動	41
国保組合 NEWS	42
事務連絡	43
赤えんぴつ	44

表紙写真について

曜光山月山寺(桜川市)

月山寺は平安時代初期の延暦15年(796年)に創建されました。

枯山水の庭は京都の寺を模して作られ、紅葉が見事に映えています。

境内には国や県指定の文化財が展示されている、月山寺美術館も併設しております。

(社)茨城・県西歯科医師会 古橋 仁

歯科医療のパラダイムシフト



専務理事
征 矢 亘

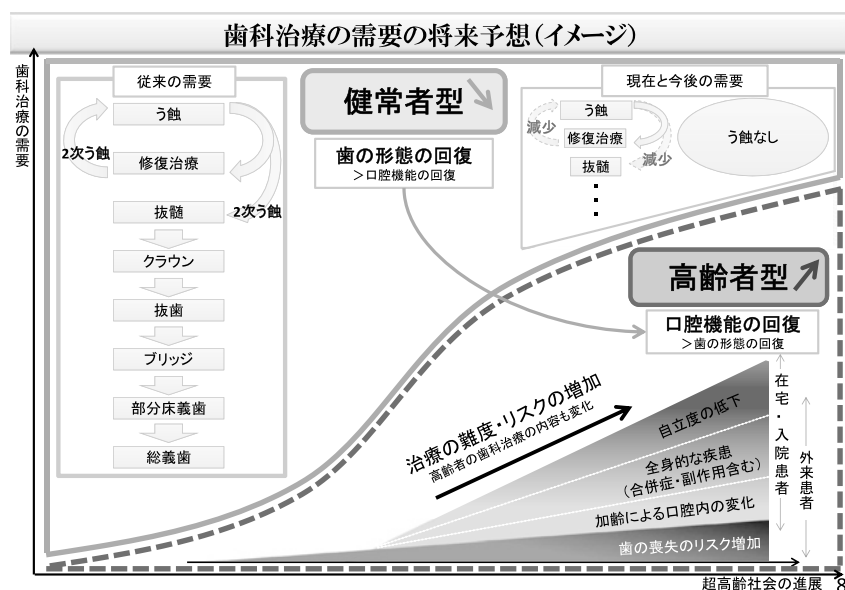
先日アメリカ大統領の選挙が行われ、大変驚いたことにトランプ氏が大勝しました。誰が想像できたでしょうか？。また、同様に現在、歯科医療が大きく変化してきていると感じているのは私だけでしょうか？。

パラダイム・シフトとは、その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが革命的に、もしくは劇的に変化することを言うそうです。

私が開業した昭和60年頃は虫歯の洪水の時代と言われ、当時の歯科医療の目標は正確な充填や形成、形態や機能回復が主な目的でした。当時の12歳児のDMFT指数は4.63でしたが、平成

27年度は0.9本と激減しております。また、平成14年の保険におけるクラウンの算定回数を100とすると平成25年は59%、ブリッジは63%、総義歯は43%でした。つまり、う蝕は確実に減ってきており、病気の構造変化が起きているのです。

また、8020達成率は1993年10.9%でしたが、2011年は38.3%と右肩上がりが増えております。このことは、要介護高齢者の方々の残存歯が増加していることが推測されます。つまり、超高齢社会を迎えた我が国では、歯科医療に対する国民の需要が変化していると考えられます。



この図は、皆様ご存知の本年保険点数改正説明会で厚労省が用いた歯科治療の需要の将来予想イメージ図です。将来は健常者の治療から、高齢者への治療へとシフトすると国は考えています。国がこのような考えていることから、訪問診療や、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所などの項目に、保険点数が手厚く貼り付けられ、我々をそちらへと誘導しているのがよくわかります。

ここで、我々の所得について考えてみましょう。1981年頃は医師と歯科医師の所得は同じでしたが、16年後の1997年には医師の約半分になってしまいました。これはまさに戦略の間違いでの結果だと思います。その間に、歯科医師数はどんどん増え、国民医療費に占める歯科医療費の割合は激減してしまいました。毎年のように国民医療費はうなぎのぼりのように増え続けていますが、歯科医療費は水平を保っています。この差は何から来るのか分析してみると、高齢者の医科受診率は右肩上がりですが、歯科受診率は右肩下がりです。高齢者医療費に歯科医療費が占める割合は、わずか4.0%にすぎないのです。将来は、ここに切り込む必要が有ることが想像されます。つまり、歯科医療費が低迷しているのは、高齢者医療に歯科が参入できていないからではないでしょうか？。日本は益々高齢者が増え、世界一を維持し続けるでしょう。2013年には高齢化率が25.1%で4人に1人でしたが、2035年に33.4%で3人に1人、2042

年以降は高齢者人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続けます。2060年には39.9%に達し、国民の約2.5人に1人が65歳以上の高齢者となります。つまり、今後診療する患者さんの大多数は有病高齢者となります。

このような社会構造の変化に歯科医療も対応が必要であります。高齢者の多くは機能が衰退していく退行性病変であり、生活（口腔）機能障害が起き、障害が普遍化する社会が来ています。この場面においてQOLの確保が必要になります。高齢者の最大の問題は「食べること」です。ここが今後、歯科医療のターゲットとなり目標としなければなりません。

今までの医療に対する評価は、究明・延命が主体であり、「死」という絶対的価値観による平均寿命の延伸が目標でした。しかし今後は、疾患の有無だけでなくQOLや生活機能を考慮した健康寿命に注目する必要があります。

要介護高齢者の日常生活における関心事の調査では、特養や、老健、老人病院、療養型病院のいずれに於いても第1位は食事です。食事を支援する職業は歯科医師であり、我々による口腔管理・口腔機能向上を必要としているのであります。つまり、今後は社会的に高齢者歯科医療のニーズは大いにあり、口腔管理、在宅歯科医療、口腔機能向上が求められているのです。皆さん歯科医療の将来について一度じっくりと考えてみて下さい。決して「釜中の魚」とならないようにしましょう。

理事会報告

第7回理事会

日時 平成28年10月13日（木）午後4時

場所 茨城県歯科医師会館 会議室

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報 告

(1) 一般会務報告

(2) 後援依頼について

①認知症市民フォーラム in 常陸太田

②平成28年度茨城県医療安全研修会（県厚生総務課）

(3) 10月開業予定の歯科医院について

(4) 疾病共済金の支払いについて

土浦石岡地区 1名 120日

(5) 会費負担金等の未納状況について

(6) まつりつくば2016の報告について

(7) 関東信越国税局からのお知らせについて

(8) 口腔センター土浦の移設経過報告について

(9) 各委員会報告について

学術委員会、厚生委員会、医療管理委員会、地域保健委員会、学校歯科委員会、社会保険委員会、専門学校

(10) 監査報告

(11) 技工士科における基金を利用した、CAD/CAM 購入について

4. 協議事項

(1) 入会申込書の受理について

寺門 重徳氏（水戸地区） 中西 伸夫氏（県西地区）の入会を受理した。

(2) 日本スポーツ振興センター学校安全業務運

営会議について

標記について、チラシの配布及び茨歯会ホームページの外部リンクについて承認した。

(3) 乳幼児歯科健診におけるCOの扱いに関するアンケート調査について（案）

標記について、アンケート調査を行う方向で内容を検討することとした。

(4) 倉庫（車庫）の見積りについて

標記見積もりについて、継続して協議することとした。

(5) 介護保険講習会講師謝礼について

標記講師謝礼について承認した。

(6) SHP Dent.いばらき講演会 講師謝礼について

標記講師謝礼について、継続して協議することとした。

(7) 29年新年会の余興について

標記余興についてクラシックギタリスト金森清次氏に依頼することとした。

(8) 関東地区役員協議会 日本歯科医師会への報告について

標記報告について承認した。

(9) 事務処理規程の改正について

標記規程の改正について承認した。

(10) 口腔センター業務管理規程について

標記業務管理規程について承認した。

(11) 弁当プロジェクト市販用試作弁当試食会開催について

標記試食会開催について承認した。

(12) 茨城県歯科医師会健康フォーラム開催案について

標記フォーラム開催について継続して協議することとした。

- (13) 全国歯科保健大会（沖縄県）について
標記大会について出席者3名分の旅費を支
出することとした。

- (14) 特定保健指導厚生総務課から共催のお願い
について
標記保険指導について承認した。

- (15) 保健福祉部との協議会提出議題について
標記提出議題について承認した。

- (16) 第162回臨時時代議員会について
標記代議員会について継続して協議するこ
ととした。

- (17) 茨城県民歯科保健大会について
標記歯科保健大会について承認した。

- (18) デンソー健康保険組合について
標記について継続して協議することとし
た。

- (19) HIV歯科医療ネットワークについて
標記について継続して協議することとし
た。

- (20) その他
口腔センター土浦を移設することについて
(答申)
標記について、承認した。



株式会社 岩瀬歯科商会



イワセオリジナルユニット
**SIGNO
NEXT**



これまでも、これからは、いつも
Iwase Dental Supply Inc. since 1926

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。
皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

■ 会社名称 株式会社 岩瀬歯科商会
■ 代表取締役 岩瀬 浩二
■ 所在地 栃木県宇都宮市平出工業団地37-6
■ 電話番号 028-613-5858
■ FAX 028-613-5859
■ Eメール iwase@iwase-dental.com

■ 製造販売・製造 株式会社モリタ東京製作所
■ 本社 埼玉県さいたま市中央区上落合2-1-24 TEL: 048-882-1315
■ 伊勢工場 埼玉県北足立郡伊勢町小室7129 TEL: 048-723-2621

■ 発売 株式会社モリタ
■ 大阪本社 大阪府吹田市豊水區3-33-18 TEL: 06-6380-2525
■ 東京本社 東京都台東区上野2-11-15 TEL: 03-3834-6161

事業所案内

支店名	所在地	TEL
本社	台東区台東2-23-7	TEL: 03-3832-8241
宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL: 028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL: 029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷観音下159-1	TEL: 047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL: 043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL: 03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL: 0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL: 024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL: 03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊玉北4-14-11	TEL: 03-5912-1180
横浜支店	横浜市栄区小菅ヶ谷1-28-9-101	TEL: 045-895-3808
5月GW明け以降	横浜市磯子区中原2-1-19	TEL: 045-770-4182
前橋支店	前橋市紅雲町1-22-2	TEL: 027-243-8241
5月GW明け以降	高崎市京目町176-2	TEL: 027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL: 046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL: 048-688-1740
盛岡支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL: 019-648-2777
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL: 042-590-5770

会務日誌

- 10月13日 新規に指定された保険医療機関に対する集団指導が県市町村会館にて行われた。
対象医療機関数 17
- 10月13日 第2回業務・会計監査を執行。業務（4月1日～8月31日）、会計（平成28年度現況）について監査を実施した。
出席者 色川監事ほか5名
- 10月13日 在宅歯科医療推進協議会小委員会を開催。要介護者の口腔ケアガイドブック作成について協議を行った。
出席者 黒澤副会長ほか5名
- 10月13日 第7回理事会を開催。入会申込書の受理、日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議、乳幼児歯科健診におけるCOの扱いに関するアンケート調査、倉庫（車庫）の見積り、介護保険講習会講師謝礼、SHP Dent.いばらき講演会 講師謝礼、29年新年会の余興、関東地区役員協議会 日本歯科医師会への報告、事務処理規程の改正、口腔センター業務管理規程、弁当プロジェクト市販用試作弁当試食会開催、茨城県歯科医師会健康フォーラム開催案、全国歯科保健大会（沖縄県）、特定保健指導 厚生総務課から共催のお願い、保健福祉部との協議会提出議題、第162回臨時代議員会、茨城県民歯科保健大会、デンソー健康保険組合、HIV歯科医療ネットワークについて協議を行った。
出席者 森永会長ほか15名
- 10月13日 第3回委員会実施事業検討会を開催。委員会実施事業の今後の計画について協議した。
出席者 森永会長ほか
- 10月15日 第1回介護保険委員会を開催。委員会実施事業の今後の計画について協議を行った。
出席者 小野寺介護保険部長ほか8名
- 10月16日 介護保険講習会を鹿行歯科医師会との共催により、神栖市「平泉コミュニティセンター」にて開催。「多職種で支える療養生活」と題して国際障害者歯科学会理事長 日本摂食嚥下リハビリテーション学会理事 昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門教授の弘中祥司先生が講演された。
受講者 41名
- 10月17日 社会保険指導者研修会が日本教育会館にて開催され、「一これからの歯科医療を取りまく新技術ー平成28年度診療報酬改定で保険収載された新技術と将来像ICTを活用した歯科医療と医療連携」について6題の講演が行われた。
出席者 榊社会保険部長ほか5名
- 10月20日 専門学校にて指定校推薦入試を実施。歯科衛生士科に対し22名の受験者があり、同日行われた合否決定委員会にて22名全員を合格とした。なお、技工士科への受験者はなかった。

- 10月20日 関東地区歯科医師会大規模災害対策検討会議が日歯会館大会議室にて開催され、会議の運営・適用範囲等について協議が行われた。
出席者 村居常務ほか1名
- 10月20日 関東信越歯科医師会審査委員連絡協議会が日歯会館にて開催される。基調講演「平成28年度診療報酬改定のポイントと今後課題について」の後に各都県からの21の提出議題について協議が行われた。
出席者 榊常務ほか6名
- 10月20日 第6回広報委員会を開催し、会報10月号の校正、会報11月号の編集について協議を行った。
出席者 菱沼広報部長ほか4名
- 10月20日 第5回厚生委員会を開催。歯科保健大会時の講演会、福利厚生事業について協議した。
出席者 増本厚生部長ほか7名
- 10月21日 4年に1度の国内歯科界最大の学術大会、第23回日本歯科医学会総会が本日より3日間、福岡国際会議場、福岡サンパレスほかで開催された。
出席者 森永会長ほか1名
- 10月27日 リハビリテーション・ケア合同研究大会茨城2016が、つくば国際会議場にて開催された。
出席者 森永会長
- 10月27日 「神奈川県歯科医師会創立110周年記念式典」がヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにて開催された。
出席者 森永会長
- 10月27日 在宅歯科医療推進協議会小委員会を開催。要介護者の口腔ケアガイドブック作成について協議を行った。
出席者 黒澤副会長ほか5名
- 10月27日 平成28年度全国学校保健・安全研究大会が札幌市にて開催（～28日）。「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」―生涯にわたり、自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成―をテーマに、全体会では表彰式、講演が開催され、翌日は10題の課題別研究協議会が行われた。席上、学校保健功労者として須田晃氏（日田市）が文部科学大臣表彰を受けられた。
出席者 千葉理事ほか1名
- 10月27日 66回全国学校歯科医協議会が札幌市にて開催され、学校歯科保健の魅力～これからの学校歯科医～と題して日本学校歯科医師会会長の丸山進一郎先生が、最近増加している小児口腔の問題点と小児歯科臨床と題して北海道医療大学歯学部教授の齊藤正人先生がそれぞれ講演された。
出席者 千葉理事ほか1名
- 10月29日 医療事故調査制度研修会が日歯会館にて開催され、講演、グループワーク等、歯科の特殊性を網羅した研修が行われた。

出席者 村居常務

- 11月 2日 第10回社会保険委員会正副委員長会議を開催。第8回委員会、Q&A、疑義、理事会、審査内容、指導について協議を行った。

出席者 榊社会保険部長ほか2名

- 11月 2日 第8回社会保険委員会を開催。疑義、審査委員連絡協議会各県回答について協議した。

出席者 榊社会保険部長ほか18名

- 11月 3日 第69回栃木県歯科医学会が栃木県歯科医師会館にて開催される。本県より黒澤俊夫氏が研究発表の講演を行った。

出席者 岡崎学術部長ほか4名

- 11月 3日 筑波大学附属病院開院四十周年記念式典がオークラフロンティアホテルつくばにて開催された。

出席者 森永会長

- 11月 8日 県後発医薬品の使用促進検討会議が県立健康プラザにて開催され、今年度の事業内容ほかについて協議が行われた。

出席者 征矢専務

- 11月 8日 摂食嚥下研修会の第4回目を開催。「摂食嚥下機能訓練の実際①」の研修を行った。

受講者 55名

- 11月 9日 県学校保健会長ほう賞選考委員会が県メディカルセンターにて開催され、平成28年度茨城県学校保健会長ほう賞受賞者の選考について協議を行った。

出席者 森永会長ほか1名

- 11月10日 専門学校において推薦入試を実施。歯科衛生士科24名、歯科技工士科9名の受験者があり、同日開催の可否決定委員会にて歯科衛生士科22名、歯科技工士科9名を合格とした。

- 11月10日 在宅歯科医療推進協議会小委員会を開催。要介護者の口腔ケアガイドブック作成について協議を行った。

出席者 黒澤副会長ほか5名

- 11月10日 改正育児・介護休業法等説明会が県総合福祉会にて開催された。

出席者 須能

- 11月10日 保険医療機関に対する集団的個別指導がひたちなか市文化会館にて実施された。

対象医療機関数 44

- 11月10日 第1回児童虐待早期発見プロジェクトチーム委員会を開催。本年度の活動計画、次年度の活動について協議を行った。

出席者 森永会長ほか3名

- 11月13日 第24回茨城県民歯科保健大会を開催。高齢者よい歯のコンクール、親と子のよい歯のコンクール、茨城県歯科保健賞および歯と口の健康に関するポスターコンクールの表彰を行った後、森永会長が「予防が大切～歯と口の健康づくり～」と題して講演を行った。

参加者 192名

- 11月14日 各分野において県勢発展に著しい功績があった方々を称える「茨城県表彰」の表彰式が茨

城県庁にて執り行われた。

出席者 森永会長

11月14日 第2回茨城県医療審議会が県医師会館にて開催され、茨城県地域医療構想（案）について協議が行われた。

出席者 森永会長

11月14日 第2回水戸・土浦合同医局会を霞ヶ浦医療センターにて開催。平成29年度購入予定機器備品（案）、平成29年度行事予定（案）について協議を行った。

出席者 森永会長ほか8名

11月14日 第1回茨城県歯科医師会口腔センター管理委員会を霞ヶ浦医療センターにて開催。平成29年度購入備品、平成28年度下半期事業計画について協議を行った。

出席者 征矢専務ほか3名

11月15日 平成28年度ハーモニートップセミナーが県庁舎にて開催された。

出席者 藤田

11月16日 第4回募金・企業協賛推進委員会がホテルテラスザガーデン水戸にて開催され、返礼品付募金の見直しほかについて協議が行われた。

出席者 鈴木事務局長

11月16日 都道府県専務理事連絡協議会が日歯会館にて開催され、時局問題について協議が行われた。

出席者 征矢専務

11月16日 第80回全国学校歯科保健研究大会が文京区「文京シビックホール」にて開催された。メインテーマを「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指してに、初日は表彰式、ポスター発表、記念講演、シンポジウムが行われ、2日目には、5つの領域別研究協議会、領域別協議会報告が行われた。

出席者 千葉学校歯科部長ほか9名

11月17日 未就業歯科衛生士復職支援のための講習会を牛久市「あすなろ歯科医院」にて開催。シャープニング、キュレットタージ、超音波スケーラーの実習と質疑応答を行った後、希望者に対して就職相談を実施した。

受講者 5名

11月17日 保険医療機関に対する個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。

対象医療機関数 2

11月17日 県ユニセフ協会理事会がJA会館にて開催された。

出席者 森永会長

11月19日 第7回広報委員会を水戸市内にて開催。会報11月号の校正、会報12月号の編集について協議を行った。

出席者 小林広報委員長ほか8名

11月20日 歯科身元確認研修会が神奈川歯科大にて開催された。午前は講義が行われ、午後からは口腔内写真撮影などの実習を行った後、質疑応答が行われた。

- 出席者 大澤防災危機管理運営小委員長ほか1名
- 11月20日 県歯科技工士会創立60周年記念式典・祝賀会がホテルレイクビュー水戸にて開催された。
出席者 森永会長
- 11月20日 県薬剤師学術大会がつくば国際会議場にて開催された。
出席者 森永会長
- 11月20日 第1回在宅歯科医療推進協議会を開催。本年度事業について協議を行った。
出席者 黒澤副会長ほか4名
- 11月22日 県総合リハビリテーションケア学会理事会がつくば国際大学第2キャンパスにて開催された。
出席者 千葉理事
- 11月23日 「山梨県歯科医師会創立100周年記念式典」が甲府富士屋ホテルにて開催された。
出席者 森永会長

会員へのお知らせ

日本歯科医師会福祉共済制度について

1. 死亡共済金受取人順位の変更について

受給権者をあらかじめ指定した方で、結婚、離婚、再婚、死別などにより受給権者の状況に変更があった場合（指定の確認は茨城県歯科医師会までお問い合わせ下さい）。

2. 火災・災害共済指定物件の変更について

住宅及び診療所所在地の変更があった場合（変更届出前に火災、災害に遭われた場合、所定の共済金が支払われないことがありますので、変更時に必ずお届け下さい）。

※ これらの変更については、所定の様式がございますから、茨歯会事務局（TEL 029-252-2561：担当 根本）までご請求願います。



第69回栃木県歯科医学会に参加して

学術委員会 須田 聡

去る11月3日に栃木県宇都宮市にある栃木県歯科医師会館にて第69回栃木県歯科医学会が開催され、茨城県歯科医師会から副会長の黒澤俊夫先生、学術担当理事の岡崎恵一郎先生、学術委員会前委員長の杉田裕一先生、学術委員会委員長の今湊良証先生、学術委員の須田の計5名で参加してきましたので報告します。



まず、プログラムの表紙に第69回とあったので驚きました。戦後間もないころ、会員によるこのような勉強会を立ち上げた当時の栃木県歯科医師会の先生方に感銘を受けました。プログラムの内容は午前が一般口演、午後が特別講演という構成で、茨城県歯科医学会よりかなり小規模で参加者も少ないようでした。お金もかからないだろうし、こういう学会も良いかと思いましたが、茨城県歯科医学会の今のスタイルに慣れている自分にとっては少々寂しい感じもしました。

現在、茨城県歯科医学会は2月か3月の日曜日に開催されていますが、栃木は毎年11月3日に

固定されているとのこと。一般口演は例年だと9時からなのですが、予想より演題が多く集まったとのことで8時30分から12時30分まで計26題、休憩なしで行われました。発表は自治医科大学、独協医科大学、病院歯科の先生方の発表が主体で、このあたりは茨城県歯科医学会と似ています。一般の開業医の先生の発表をいかに増やすかは共通の課題であるように思いました。学会の進行について気づいたことは、座長は茨城では学術委員が行いますが、栃木は支部長が担当していることです。また、座長が3～4の演題を担当するところは茨城も栃木も同じです。一般的には学会では一つの演題が終わるごとに質疑応答がありますが、栃木の場合は座長が担当する3～4の演題について最後にまとめて質問を受け付けるというものでした。

本県からは昨年は学術委員の安藤先生が発表されましたが、今年は黒澤俊夫先生が、「日立モデルの道のり～がん社会・地域包括ケアに対応する医科歯科連携をめざして～」というタイトルで発表されました。茨城県歯科医学会や、がん医科歯科連携シンポジウムなどで何度か発表されているテーマですが、栃木県の会員の先生方も興味深げに聞き入っておられました。ただ、止むを得ないことですが日立モデルを紹介するのに8分間の口演時間は短く、もう少し時間があればと思いました。



一般口演は大学病院、病院歯科、一般開業医、歯科衛生士、歯科技工士に加え、栄養士会からも2題発表がありました。近年、医科歯科連携ということが盛んに言われていますが、医師、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士に加え、栄養士、介護士、ケアマネージャーなど様々な職種の方々がこのような機会を通じて理解と連携を深めていくことは大切であると感じました。

午後は日本歯科大学大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学教授で口腔リハビリテーション多摩クリニック院長の菊谷 武先生が「食べることに問題のある患者に歯科は何が出来るのか？」というテーマで講演されました。菊谷先生の講演は今まで何度か聞いたことがあります、クリニックの紹介から始まり、テレビ出演の裏話など、ユーモアを交えながら2時間40分という長い時間でしたがまったく飽きさせることなく聴衆を引き込む素晴らしい内容の講演でした。多摩クリニックでの臨床の実例はもちろんのことですが、文献的な考

察もふまえ、豊富なスライドを駆使して大変わかりやすい講演だったと思います。団塊の世代が後期高齢者になる、いわゆる2025年問題がありますが、あと8年余りに迫っています。外来に来られなくなった人、咀嚼や嚥下が上手く出来なくなった人に対して我々歯科医はどうすればよいか、もっと真剣に考えていかなければならないテーマだとあらためて感じました。



学会終了後は宇都宮グランドホテルにて懇親会が行われ、今湊委員長が出席されました。

最後にこのような機会を与えてくださいました茨城県歯科医師会並びに栃木県歯科医師会の先生方に感謝申し上げます。



第75回日本公衆衛生学会に参加して

地域保健委員会 北見 英理

平成28年10月26日（水）～28日（金）にかけて、大阪府大阪市において第75回日本公衆衛生学会総会が開催され、地域保健委員会の北見が参加しましたので報告いたします。

総会のメインテーマは、「次世代の健康社会実現のための公衆衛生人材育成」でした。磯博康学会長（大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教授）は、「少子超高齢化が進むわが国にとって、子供から高齢者までのすべての世代における健康増進、疾病や健康障害の予防、医療、福祉の改革と充実が求められている中、公衆衛生に係る人材の育成と確保は大きな課題であり、総会にて活発な議論を深めていただきたい」と述べられました。

内容は、特別講演・報告が5題、教育講演が10題、シンポジウムが41題、ランチョンセミナーが17題、市民公開講座等、そして演題総数は1817題で、過去最大規模の総会となりました。

地域保健委員会では、平成21年の第68回から8年連続で本学会に参加し、「新しい歯科健診“口腔機能健康測定”」について示説しています。今年度は、演題名を「口腔機能健康測定判定結果と質問調査との関連性に関する研究」として発表しました。下記に抄録を示します。

【共同演者】北見英理¹⁾ 戒田敏之¹⁾
福田雅臣²⁾

【所属】茨城県歯科医師会¹⁾

日本歯科大学生命歯学部衛生学講座²⁾

【目的】茨城県歯科医師会では、口腔機能検査を加えた受診者参加型の新しい歯科健診「口腔機能健康測定」（口腔機能測定）を考案し、県内の市町村および事業所などで口腔保健活動に活用している。口腔機能測定は、唾液潜血試験（ペリオスクリーン：PS）と混合力検査ガムによる口腔機能検査（混合力検査）の検査結果の組合せで、青信号、黄信号、赤信号の3段階で総合判定されるものである。今回は総合判定と年齢階級および口腔機能測定時に実施する質問調査との関連性について解析したので報告する。

【対象と方法】調査対象は平成21年から27年に茨城県内の市町村で実施した口腔機能測定の受診者2000名（男性383名、女性1617名）である。年齢構成は30代67名（男性20名、女性47名）、40代224名（男性50名、女性174名）、50代334名（男性41名、女性293名）、60代837名（男性128名、女性709名）、70代以上538名（男性144名、女性394名）である。口腔機能測定は、PSについては－・＋・＋＋の3段階で評価し、混合力検査は赤と青の粒ガムを各1個口腔

内に入れ30回と60回咀嚼させ、各回数での混合状態をA：原色が残る、B：点状に残る、C：一様に紫色の3段階で判定し、咀嚼回数と混合状態の組合せで“低混合力群”“正常群”“過混合力群”3群に区分した。これらの結果から総合判定を青信号：PS（－）正常群、

黄信号：PS（＋）正常群、赤信号：青黄以外の3段階に層化した。口腔内状況と生活習慣に関する質問調査は口腔内状況8項目、ガム咀嚼時の状態7項目、生活習慣7項目で構成されるもので、自記式にて回答してもらった。統計解析はカイ二乗検定を行った。

【結果】

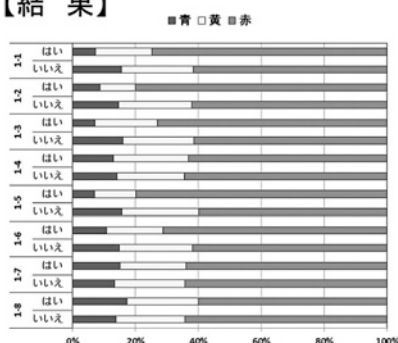


図3-1 口の中の状態

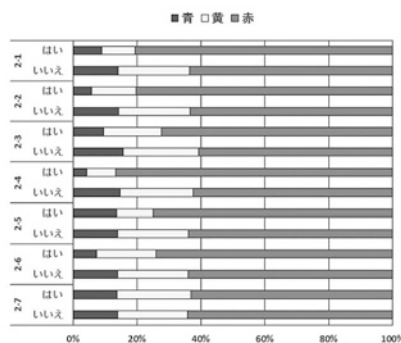


図3-2 混合力検査時の状態

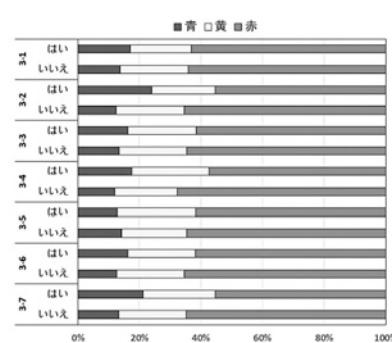


図3-3 生活習慣の状態

図3 各問診項目と口腔機能総合判定の構成比率

表1 各問診項目と口腔機能総合判定の関連性

項目	回答	人数			χ ² 値	p値	判定
		青	黄	赤			
性別	男	383	132	251	0.43	0.51	
	女	1619	587	1032			
年齢	30代	67	43	24	72.08	0.00	**
	40代	224	115	109			
	50代	334	119	215			
	60代	838	303	535			
	70代	527	138	389			
	80代	12	1	11			
1-1	はい	385	98	287	22.66	0.00	**
	いいえ	1617	621	996			
1-2	はい	240	48	192	30.01	0.00	**
	いいえ	1762	671	1091			
1-3	はい	476	129	347	21.07	0.00	**
	いいえ	1526	590	936			
1-4	はい	390	144	246	0.21	0.64	
	いいえ	1612	575	1037			
1-5	はい	428	87	341	57.46	0.00	**
	いいえ	1574	632	942			
1-6	はい	480	139	341	13.27	0.00	**
	いいえ	1522	580	942			
1-7	はい	601	217	384	0.01	0.91	
	いいえ	1401	502	899			
1-8	はい	75	30	45	0.57	0.45	
	いいえ	1927	689	1238			
2-1	はい	67	13	54	8.21	0.00	**
	いいえ	1935	706	1229			

項目	回答	人数			χ ² 値	p値	判定
		青	黄	赤			
2-2	はい	87	18	69	9.16	0.00	**
	いいえ	1915	701	1214			
2-3	はい	580	161	419	23.60	0.00	**
	いいえ	1422	558	864			
2-4	はい	142	19	123	33.72	0.00	**
	いいえ	1860	700	1160			
2-5	はい	44	11	33	2.33	0.13	
	いいえ	1958	708	1250			
2-6	はい	27	7	20	1.19	0.28	
	いいえ	1975	712	1263			
2-7	はい	65	24	41	0.03	0.86	
	いいえ	1937	695	1242			
3-1	はい	147	54	93	0.05	0.83	
	いいえ	1855	665	1190			
3-2	はい	268	120	148	10.56	0.00	**
	いいえ	1734	599	1135			
3-3	はい	329	127	202	1.24	0.27	
	いいえ	1673	592	1081			
3-4	はい	690	295	395	21.40	0.00	**
	いいえ	1312	424	888			
3-5	はい	324	125	199	1.19	0.27	
	いいえ	1678	594	1084			
3-6	はい	749	285	464	2.37	0.12	
	いいえ	1253	434	819			
3-7	はい	155	69	86	5.40	0.02	*
	いいえ	1847	650	1197			

* P<0.05 ** P<0.01

表2 口腔機能総合判定と各問診項目のロジスティック回帰分析

問診項目	偏回帰係数	標準偏回帰係数	p値	判定	オッズ比	95%信頼区間		99%信頼区間	
						下限値	上限値	下限値	上限値
年齢	0.223	0.097	0.000	**	1.25	1.13	1.38	1.10	1.43
性別	0.021	0.003	0.877		1.02	0.78	1.33	0.72	1.44
1-1	-0.522	-0.083	0.000	**	0.59	0.45	0.77	0.42	0.84
1-2	-0.582	-0.076	0.001	**	0.56	0.39	0.79	0.35	0.89
1-3	-0.550	-0.095	0.000	**	0.58	0.45	0.74	0.42	0.80
1-4	0.042	0.007	0.738		1.04	0.81	1.34	0.75	1.45
1-5	-0.617	-0.102	0.000	**	0.54	0.41	0.71	0.37	0.78
1-6	-0.259	-0.045	0.033	*	0.77	0.61	0.98	0.56	1.06
1-7	-0.011	-0.002	0.920		0.99	0.79	1.23	0.74	1.32
1-8	0.153	0.012	0.568		1.17	0.69	1.97	0.58	2.33
2-1	-0.499	-0.036	0.128		0.61	0.32	1.16	0.26	1.41
2-2	-0.389	-0.032	0.177		0.68	0.39	1.19	0.32	1.42
2-3	-0.236	-0.043	0.047	*	0.79	0.63	1.00	0.58	1.07
2-4	-0.884	-0.092	0.001	**	0.41	0.24	0.70	0.21	0.83
2-5	-0.301	-0.018	0.426		0.74	0.35	1.55	0.28	1.96
2-6	-0.086	-0.004	0.854		0.92	0.37	2.30	0.27	3.07
2-7	-0.110	-0.008	0.703		0.90	0.51	1.58	0.43	1.88
3-1	-0.176	-0.019	0.386		0.84	0.56	1.25	0.50	1.41
3-2	0.305	0.042	0.050	*	1.36	1.00	1.84	0.91	2.02
3-3	0.239	0.036	0.086		1.27	0.97	1.67	0.89	1.82
3-4	0.242	0.047	0.028	*	1.27	1.03	1.58	0.96	1.69
3-5	0.140	0.021	0.300		1.15	0.88	1.50	0.81	1.63
3-6	0.014	0.003	0.896		1.01	0.82	1.25	0.77	1.33
3-7	0.251	0.027	0.194		1.29	0.88	1.88	0.78	2.12
定数	3.162		0.000	**					

* P<0.05 ** P<0.01

【考察】年齢階級と総合判定との関連では、総数および男女別ともに、年齢階級が上がるにしたがって、青信号、黄信号が減少し、赤信号が増加していくことが分かった（ $P<0.01$ ）。総合判定と質問調査との関連では、口腔内状況では、「気になるむし歯」、「グラグラする歯」、「歯ぐきからの出血」、「入れ歯の使用」、「歯が抜けたまま」、ガム咀嚼時の状態では、「左右均等に噛んでない」、「噛みにくい」、生活習慣では「規則正しい食生活」、「運動習慣」と有意な関連性があった（ $P<0.01$ ）。したがって、本検査法は簡便に口腔保健状況の把握が可能であり、生活習慣との関連性も示されたことから、地域保健活動への応用の可能性があることがわかった。

今年の学会では、岡山県備前県民局次長・二宮忠矢先生、東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野准教授・相田潤先生、長崎大学歯学部口腔保健学講師・福田英輝先生と名刺交換をしてきました。さらに日本歯科医師会地域保健委員会でご一緒の日本大学歯学部医療人間科学教授・尾崎哲則先生、国立保健医療科学院地域医療システム研究分野統括研究官・安藤雄一先生などにもお会いし交流してきました。また偶然にも、茨城県保健福祉部保健予防課の瀧澤伸枝先生とポスター発表が隣になり記念撮影をしてきました。

ガム検査の前にお答えください。

1 口の中の状態について。

1	気になる虫歯がありますか	はい	いいえ
2	グラグラする歯がありますか	はい	いいえ
3	歯ぐきから血が出やすいですか	はい	いいえ
4	口内炎が起きやすいですか	はい	いいえ
5	入れ歯を使用していますか	はい	いいえ
6	歯が抜けたままのところがありますか	はい	いいえ
7	口臭が気になりますか	はい	いいえ
8	口が開けにくいですか	はい	いいえ

ガム検査の後にお答えください。

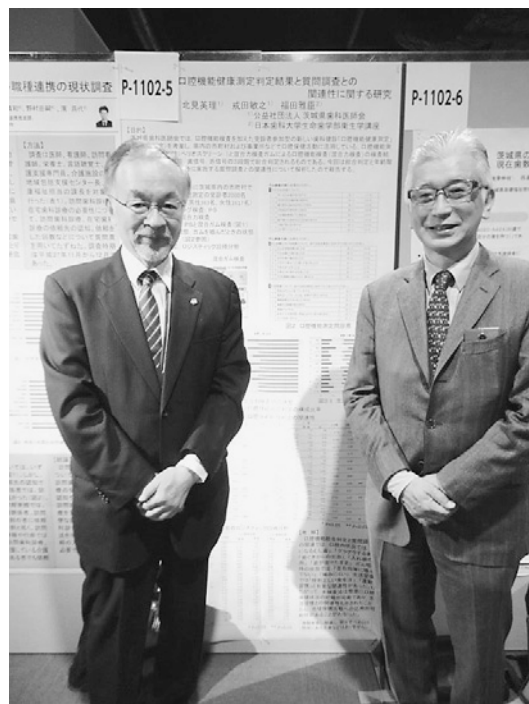
2 ガムを噛んでいる状態について、当てはまる項目にはすべて○をつけてください。

1	ガムの甘味を感じましたか	はい	いいえ
2	ガムは硬いと感じましたか	はい	いいえ
3	左右均等に噛めましたか	はい	いいえ
4	口の中で噛みにくい感じがありましたか	はい	いいえ
5	だ液は多く出ましたか	はい	いいえ
6	だ液はうまく飲み込みましたか	はい	いいえ
7	アゴの関節が痛かったり、音がした	はい	いいえ

3 生活習慣について、当てはまる項目にはすべて○をつけてください。

1	朝食はきちんと食べていますか	はい	いいえ
2	規則正しいバランスの良い食事ができていますか	はい	いいえ
3	睡眠時間は十分とれていますか	はい	いいえ
4	運動する習慣がありますか	はい	いいえ
5	便秘がちですか	はい	いいえ
6	勤務中や休憩時間に間食しますか(飲み物も含む)	はい	いいえ
7	タバコを吸いますか	はい	いいえ

使用した質問票



共同演者の福田雅臣教授とポスターの前で記念撮影



茨城県保健福祉部保健予防課の瀧澤伸枝先生と記念撮影

平成28年度 全国学校保健・安全研究大会

学校歯科委員会 高木 幸江

平成28年10月27・28日の2日間、北海道札幌市の札幌コンベンションセンターで「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進—生涯にわたり、自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成—」をテーマに平成28年度全国学校保健・安全研究大会が開催されました。県歯学校歯科担当理事の千葉順一先生と委員の高木で参加してまいりましたのでご報告いたします。



27日（木）午後1時より開会式が行われ、文部科学省から松野 博一大臣、日本学校保健会からは横倉 義武会長他、ご挨拶がありました。その後、平成28年度学校保健・安全の表彰式が行われ、茨城県からは文部科学大臣賞として4個人、2団体と学校ボランティア活動奨励賞として1団体が表彰されました。また、学校歯科医として、日立市立多賀中学校の須田 晃先生が表彰されました。

記念講演

「子供たちの学校生活を守るための校内連携と他職種連携」

～発達障害、被虐待経験をもつ子供たちを中心に～

こころとそだちのクリニックむすびめ

院長 田中 康雄氏



日々の生活時間の多くを送る学校生活において、子ども達は様々なSOSを発信している。その中でも、子ども達が生来的に抱えている発達障害（知的能力障害群、コミュニケーション症群、自閉スペクトラム症、注意欠如、多動、限局性学習症、運動症群）と被虐待児童候群があると思われる児童生徒への対応は、校内連携のみならず、郊外その他職種連携が必要不可欠となる。

教員は、教科指導に留まらず、学級経営者であり、対人援助職も兼ねている。教育は、「配慮を必要とする子ども」に置きながらも、全体をまんべんなく視野に入れなければ成り立たない。さらに、「配慮を必要とする子ども」は、特定の生徒ではなく、日々時々刻々に変化する。このような

状況下で、異職種との連携までは、たどり着かないのが、現状である。

一方、医療者は訪れた子ども一人と向き合い話が出来るが、教育現場と異なり子どもの生活に足を下していない。症群の鑑別、重なりをもっている子ども達を診たてるとは難しい。また昨今の発達障害ブーム、トラウマブームから過剰な判断をしていないか医療者が常に自問自答する必要がある。

連携は困難であるが、他職種者と対話を続け相互に諦めずに関わり続けることが大切である。

大会2日目は、課題別研究協議会が行われ、第5課題の「歯と口の健康づくり」に参加しました。

研究発表

- ①歯科健康診断の効果的な実地と結果等を活用した健康教育の充実について

秋田県秋田市立明德小学校

- ②本校における歯科保健の取り組みについて

沖縄県立宮古特別支援学校

- ③地域とともに生涯にわたる「歯・口の健康づくり」

北海道羅臼町立春松中学校の研究発表がありました。明德小学校、春松中学校では、週1回のフッ素洗口が4、5年前から教育委員会の協力のもと行われ、良い結果が出ているとのことでした。

宮古特別支援学校は、5障害種に対応し、幼稚部から高等部まで69名が在籍し、その内の17名は寄宿舎で共同生活をしています。寄宿舎での歯磨き指導も行われ、虫歯無し（未処置歯無し）で卒業することを目標としているそうです。

3校とも、地域の特性、タブレット端末のアプリ、視覚教材を利用した活動が行われていました。

講義

生涯にわたる健康管理の基礎となる歯・口の健康づくりの進め方

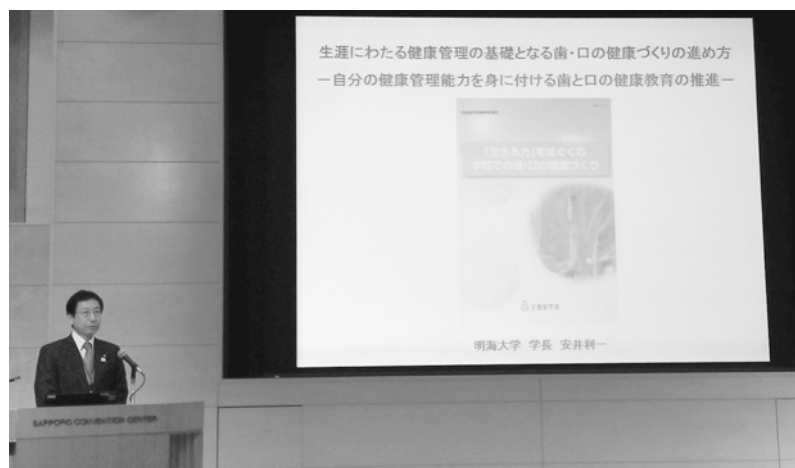
—自分の健康管理能力を身に付ける歯と口の健康教育の推進—

明海大学 学長 安井 利一先生

子供達の発達段階にしたがって、保護者から始まって、徐々に子供の行為と変化している「歯みがき」や「食事」の行為は、子供達の自己管理能力の育成をステップごとに進んでいく有効な健康関連行動と言える。

健康づくりの主体は発達段階の子供である。場の主体は学校であり、家庭と地域との連携である。手段の主体は教育である。

行動変容を促すには、自己健康管理能力を育成することがもっとも重要であり、学齢期が適切である。食えること、美しさ、スポーツ、発音など子供達の興味関心のある話題で導入を図り、自分自身で評価できる自己管理方法を育成することが大切であり、それが「生きる力」にもつながっていく。その子と自分が係りがある時にその子の自己管理能力をどう高めてやるかが求められるとのことでした。



第66回 全国学校歯科医協議会

学校歯科委員会 高木 幸江

平成28年10月27日に札幌市の京王プラザホテル札幌で、第66回全国学校歯科医協議会が開催され、県歯学校歯科担当理事の千葉順一先生と委員の高木で参加してまいりましたのでご報告いたします。

北海道歯科医師会副会長西隆一先生の開会の辞に始まり、北海道歯科医師会会長藤田一雄先生、日本学校歯科医会会長丸山進一郎先生の挨拶がありました。



特別講演

1. 学校歯科保健の魅力ーこれからの学校歯科医ー 一般社団法人 日本学校歯科医会 会長 丸山進一郎先生

平成21年度より「学校歯科医生涯研修制度」が始まり、基礎研修会の受講者は、約2万人を超えています。基礎研修受講者が8年目を迎えるにあたり、研修について検討中だそうです。

平成27年度の文部科学省の学校保健統計によれば、12歳児（中学1年生）の一人平均むし歯本数は0.9本になりましたが、一方で歯肉炎を持つ子どもの割合は小学2年生あたりから徐々に増え始め、中学生になると50%以上の子ども達が歯肉に炎症を持っています。その背景には、生活時間の大人化、深夜化、種々の環境から受けるストレスがあり、思春期の難しさ、メンタル面への配慮が必要です。もう一つは、生活習慣、育児環境の変化から口呼吸、咀嚼、嚥下、発音などの口腔機能の健全な発達が危ぶまれています。現

代の子ども達の健康課題は、かつてのそれとは大きく様変わりしており、我々学校歯科医は幅広い歯科医学の視点を持って活躍することが必要です。

2. 最近増加している小児口腔の問題点と小児歯科臨床

北海道医療大学歯学部

口腔構造機能発育学系小児歯科学分野

教授 齋藤 正人先生

う蝕が減少した原因として、少子化により小児の健康や容姿に対する保護者の関心の高まりが要因の一つとして挙げられます。それとともに、歯並び、歯の色調・形態の異常、口臭、顎関節の異常などの問題点に関する相談が増えています。また、最近の学童は運動能力が向上しているのですが、わずかな不注意や思わぬアクシデントによる歯の外傷は年々増加しています。また、発達障害患者は、今後益々増える傾向にあります。音や口腔周囲の触覚に敏感であることに注意が必要です。コミュニケーションが苦手な発達障害児とわからず、コミュニケーションを取ろうと知らず知らずのうちに必死になってしまうことが、ベテランの衛生士さんに多いそうです。服薬状況を把握し、浸潤麻酔薬の選定には注意が必要で、絵カード、笑気が有効だそうです。

私達学校歯科医の多くが、子ども達と接するのは、健康診断、ブラッシング指導が主です。これらのことが、自己管理能力の育成、生涯にわたる健康管理につながる大切な保健教育であることを改めて考えさせられました。「自分と係りがある時期にその子の自己管理能力をどう高めてやるか」というところに、学校歯科保健の魅力があるように思いました。



第6回重症心身障害者等 支援従事者研修会に参加して

茨城県歯科医師会 口腔センター土浦 坂巻 ますみ、村居 幸夫
征矢 亘、森永 和男

平成28年10月29日（日）に土浦協同病院で第6回重症心身障害者等支援従事者研修会が開催されました。研修会の場所となった土浦協同病院は今年3月に移転新築オープンしたばかりで、新しい建物、広大な駐車場など設備が充実し、患者さんが癒される医療環境になっていました。午前中は総合周産期母子医療センター、小児科病棟の見学がありました。急患対応のためNICU（新生児集中治療室）、GCU（回復期治療室）はガラス越しの見学になりました。NICU、GCUは一部屋になっており、現在35名の赤ちゃんが24時間体制で治療、看護をされています。奥の方から急性期、手前の方に回復期の退院を控えた赤ちゃんがおり、看護師さんが優しく赤ちゃんをケアしている様子が見られました。ICUというとマスク、予防衣というイメージがありましたが、私たちが診療で着

用しているようなユニホームで接しており、とても優しい雰囲気でした。しかし、そのGCUのなかにも退院のめどがたたない赤ちゃんもおり、満床の要因になっているそうです。その後、小児病棟を見学しました。病棟内は人気のキャラクター「ミッフィー」が取り入れられ、ドアや壁もブルーナカラー（オレンジ、黄色、緑、青）が配されていて、子供たちが楽しく、リラックスして入院できるよう工夫されていました。PICU（小児集中治療室）では循環管理・呼吸管理が必要な小児5名が入院していました。側に寄り、名前を呼ぶと口を少し動かして反応してくれました。その子供たちのなかには、家庭の事情により自宅には帰れず長期入院になっている子もおり、それがまた満床の要因になっているそうです。現在、PICUを希望している待機小児が4名いるそうです。県内



にも数少ない小児救急病院の現場を見学でき、貴重な経験をさせていただきました。その後、県内の重心関連5施設の現状の発表と意見交換会がありました。歯科の立場からは口腔センター水戸、土浦も参加いたしました。意見交換ではNICUからの転院対応や超重症児への対応が課題になっていました。NICUでは安全で濃密な医療がなされていましたが、在宅や施設で同じようにできるかと母親が不安になることもあるそうです。また、在宅からの入所の場合、呼吸器管理などでマニュアル通りでなく母親が独自にアレンジしている場合があります。トラブルの元になっているそうです。施設が受け入れをするにはスタッフの数を増やし、感染を防ぐ為に改築を行うなどの改善が必要になります。そしてスタッフがお互いに交流、レベルアップするための研修システムを作っていく、重症児の対応に特化した看護師の育成を目指すことが必要との意見がありました。

今回の研修会では、施設見学、重心関連施設の現状を聞くことができました。現在は医療の発展により、多くの低出生体重児や疾患をもった新生児が救命されるようになりました。急性期の治療が終了しても、医療的ケアを必要とするために退院できずにNICUで長期入院になっていることが大きな問題であること、また、在宅へ戻れたとしても急変時に受け入れてくれる医療機関の確保や訪問介護などへの家族の不安が大きいこともわかりました。

重症心身障害児では経管栄養、気管切開、胃瘻の患者も多く、呼吸器などの感染症予防のために口腔ケアがとても重要です。口腔ケア時には、筋緊張や呼吸、誤嚥など全身への配慮も必要になります。歯科の立場からいつでも対応出来るように、技術の向上、スキルアップをしていきたいとします。



【体験入学】

高校生や社会人を対象に、体験入学が7月27日（水）、8月17日（水）、9月24日（土）に開催されました。

歯科衛生士科では、例年同様本校3年生が中心となって、マネキンを使ったスケーリングや相互でのパキューム体験、印象材の練和や型取り、口腔内の細菌観察、染め出しをしてのブラッシングを行いました。

また今回より専用のローションとブラックライトを使用した手洗いチェッカーの体験をしてもらいました。一目で洗い残しが分かるので、興味を示す様子が見られました。



また、8020・6424情報センターや口腔センター水戸の見学、また3年生から学校生活についてのお話では、真剣に耳を傾けているのが印象深く感じました。

歯科技工士科では、石膏の練和や注入、歯のアクセサリー作り、石膏彫刻などを体験してもらい

ました。また、スライドを用いてクラウン・全部床義歯製作の過程を説明しました。



3時間という短い時間でしたが、この体験を通して、より多くの参加者が本校に志願してくれることを期待しております。

（文責 川崎・山下）

【いばらき専門カレッジリーグ 水戸まちなかフェスティバル参加】

9月25日（日）、水戸市中心街地において、水戸まちなかフェスティバルが開催されました。数日ぶりの晴れ間に、来場者も多く大変盛大なイベントとなりました。

本校もいばらき専門カレッジリーグとして参加し、教職員6名、歯科技工士科2年生5名、歯科衛生士科3年生12名の計23名で担当しました。

歯科技工士科ブースでは、実習作品の展示や歯ブラシのデコレーション、オリジナルキーホル



ダー作りを体験して頂きました。

歯科衛生士科ブースでは、顕微鏡による細菌検査、模型へのブラッシング体験、咬合力をみるガム検査などを体験して頂きました。



参加した方々はどのブースでも親子連れが多く、初めて目にする口腔内細菌に、驚きと興奮の声が多く聞こえました。また、細菌を見た後は、模型に対して熱心にブラッシングを行う姿も見られ、動機づけのひとつになったのではないかと思います。

学生たちも来場者の方々とコミュニケーションをとりながら楽しんで説明していました。

(文責 川井 小田倉)

一 歯科衛生士科一

【スポーツ大会 (全学年)】

10月11日 (火) 内原ヘルスパークにて、スポーツ大会が開催されました。2年生が中心となり準備・企画しました。

今回のスポーツ大会の種目は、バスケットボール、バレーボール、ドッジボールの3種目でどの学年もチーム全員で声をかけ合いながら楽しそうにプレーしていました。

バレーボールやバスケットボールでは経験者が迫力あるアタック・サーブ、シュートを決め、試合が進められていました。

選手以外の応援にも熱が入り、自分のチームが試合にでないときには他のチームの応援をしている姿がみられ、普段なかなか見ることのできないクラスの絆を垣間見ることができました。また、3年生からのリクエストで急遽、恒例の全員リレーを行いました。会場は盛んに盛り上がり終わることができました。スポーツ大会の最後には、1、2年生から3年生に国家試験に向けてのエールを送り、それを受けて3年生は、1、2年生に自分たちが実習で経験したことなどを踏まえてアドバイスや激励の言葉を送っていました。

今回のスポーツ大会で、普段の学校生活では見ることのできない学生の新たな一面を見ることができました。学生は同学年、他学年相互の親睦が一層深められたのではないかと思います。



(文責 菱沼)



講習会名

「歯科外来診療における救急時の医療安全管理及び歯科における漢方薬の有用性」

講師 別部 智司 先生

鶴見大学臨床教授（総合診療科2）、神奈川歯科大学客員教授（麻酔科学）、
日本大学歯学部（歯科麻酔学）、日本大学松戸歯学部（歯科麻酔学）

(社)鹿行歯科医師会 本間 一哉

平成28年7月30日（土）17時、総合式場サンロード鹿島にて、鹿行歯科医師会地域保健委員会主管により開催されました。

講演内容

1. 医療事故および偶発症に対する緊急時の対応

* 全身的偶発症の種類（1243症例）

- ・ 脳貧血（61%）急激な血圧低下によっておこる症状
- ・ 血圧上昇（4%）
- ・ 薬剤アレルギー（3%）
- ・ 過換気症候群（3%）
- ・ 局所麻酔薬中毒（3%）
- ・ その他

* 患者さんが不快症状を示す診療内容

- ・ 局所麻酔（82%）嘔吐、意識レベル低下、血圧低下などを伴う
- ・ 外科処置（50.2%）
- ・ 抜髄、有痛時（26.9%）
- ・ 補綴（8.2%）
- ・ 保存療法（3.2%）
- ・ その他



* インプラント術中死亡例について

インプラント術前診断に関して、歯科用CT撮影の具体的な必要性を明確化し、機器若しくは画像が供給しやすい体制の確保を検討すること。

* アナフィラキシー・ショック

- ・ 抗原が体内に浸入→異物と判断→IgE抗体を作り出す→異物の再浸入→強いアレルギー反応を示す。

- ・多くは抗原が浸入して30分以内～2時間以内に発現し、症状は強く持続時間は短いのが特徴です（即時型1型アレルギー）。

- ・呼吸器系：胸痛、呼吸困難

皮膚：痒み、むくみ、蒼白、潮紅

心臓血管系：脈拍微弱、頻脈、低血圧

神経系：不安、意識障害（混迷、昏睡）

その他：結膜充血、嘔吐、腹痛

治療には酸素吸入、エピネフリンの投与、静脈路確保などのショックの治療、意識喪失時には救急蘇生など積極的に行う必要がある。

* ワーファリン中止は次の理由から不適切

- ・ガイドライン、専門医が薦めない。
- ・服用継続でも重篤な出血は起こらない。
- ・中止により重篤な危険が100回に1回（1%）ある。

* 安全な歯科診療に应用させよう K Y T

- ・危険予知訓練：

Kiken・Yochi・Training⇒K Y T

- ・危険予知：Kiken・Yochi⇒K Y

- ・危険予知活動：

Kiken・Yochi・Katsudou⇒K Y K

- ・安全に働くということ

- (1) 組織の安全管理体制の整備
- (2) エラー発生のメカニズムとその対策
- (3) 事務の特性（多重課題、業務中止、時間切迫、同時進行）から見た安全な働き方
- (4) チーム医療における安全な働き方
⇒医療K Y T

2. 高齢者の心身的評価と緊急時対応

* 高齢者の生理的特徴

- ・廃用症候群になりやすい
- ・脱水症になりやすい
- ・低栄養になりやすい

- ・便秘になりやすい

- ・認知機能が低下しやすい

以上の事を考慮して、バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸、体温）を指標に対応する。

3. 感染対策

* 患者に見える院内感染予防に取り組もう

- ・患者には、治療前にうがい薬でうがいしてもらいましょう
- ・必ず手を洗いましょう
- ・自分の健康は自分で守りましょう
- ・治療時には、グローブ・マスク・メガネもしくはゴーグルを着用しましょう
- ・汚染されていないものに触れるときは、グローブを外しましょう
- ・使用した機材は患者毎に取り換えましょう
- ・使用した器具は水洗い、洗浄後オートクレーブやガスで滅菌するか、薬液で消毒を行いましょう
- ・消毒液の濃度と作用時間を守り、保管、廃棄を確実に
- ・ディスポーザブル製品があるものは、出来る限り使用しましょう
- ・ラバーダムの使用を励行しましょう
- ・歯科用注射針は原則としてリキャップしません
- ・印象を取った材料は、石膏を注入する前に、水洗するか薬液で消毒、汚染物を素早く除去しましょう
- ・文書化された院内感染予防手引書を常備しましょう

4. 歯科領域の漢方薬の使い方

* ツムラ立効散の処方の要点

- ・適応：抜歯後の疼痛、歯痛
- ・使用目標：喘息、消炎鎮痛薬アレルギー、漢方薬を除く薬剤アレルギー、一般の薬嫌いなど

- ・副作用：偽アルドステロン症、ミオパシー
- ・処方例：頓服 Rp) ツムラ立効散
1回 1包 (2.5g) 疼痛時
内服 Rp) ツムラ立効散
1回 1包 (2.5g)、食前1日3回 7日分

*** 漢方を使用する利点**

- ・アレルギー体質、多種多量の薬を服薬している、あまり薬を好まない、もしくは飲めない患者に出せる
- ・他院と違うことがアピールできる

*** 禁忌症！！**

排膿散及湯を処方するときは、、、

- ・アルドステロン症：副腎皮質、肝硬変、腎臓病
- ・ミオパシー：筋肉の疾患の総称
- ・低カリウム血症：腎臓病

これらを悪化させる。

また、利尿剤投与患者に併用させると上記疾患が表れやすくなるので併用注意。



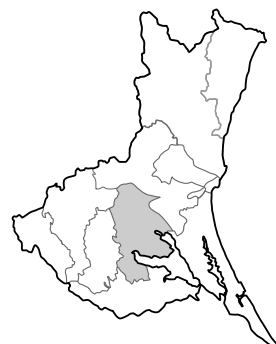
*** 副作用【偽アルドステロン症】**

配合生薬の甘草の大量服用により生じる。特に、服用期間が長くなるときは要注意。

- ・症状：だるい、血圧上昇、浮腫、体重増加、手足のしびれ、痛み、筋肉の痙攣やふるえ、力が入らない、胃の不快感、食欲不振、吐き気

以上のテーマ、質疑応答を含め2時間で行う盛りだくさんの内容で中身の濃い講習会でした。

第17回歯科医師会市民公開講座・ 平成28年度ウララ講演会



(社)土浦石岡歯科医師会 寺澤 秀朗

去る平成28年9月25日（日曜日）に土浦市歯科医師会・茨城県県南生涯学習センター共催の市民公開講座ウララ講演会が県南生涯学習センターで開催されました。本公開講座も今年で17回目を数えることができました。講演会には、200名の市民の皆様に参加していただきました。

今年は、「歯科医師会からのお知らせ」として、一般社団法人土浦市歯科医師会 会長 長谷川 周 先生に、「むし歯予防はどうやるの？～フッ素のじょうずな使い方～」と題して健康な歯を守るためのフッ化物応用の必要性、全国における茨城県の現状、他県の県民への取り組みについてのお話、「虫歯はどうしてできるのか？」そして、フッ素の安全性や効果についてわかりやすくご講話いただき、健康な歯でよく噛むことが全身の健康を保つために重要であり、笑顔で生き生きとした生活を送るために口の健康が重要であることをご講演いただきました。講演の中では一般市民の方だけではなく、我々にとっても今以上に興味を持ち再確認・再認識することで利用してくださる患者さんとのコミュニケーションに用いることのできる内容をわかり易くお話しをしていただきました。

第二部は、作家で天才コピーライターそして心理カウンセラーの「ひすいこたろう先生」をお招きしました。ひすい先生は「視点が変われば人生が変わる」をモットーに、ものの見方を追求しており、さらに日本メンタルヘルス協会の衛藤信之



氏から心理学を学び、心理カウンセラーの資格を取得。『3秒でハッピーになる名言セラピー』がディスカヴァーMESSAGE BOOK大賞で特別賞を受賞しベストセラーに。他には『あした死ぬかもよ?』『あなたの人生がつまらなくなるんだったら、それはあなた自身がつまらなくしてるんだぜ』や『ものの見方検定』など多くのベストセラーを手がける一方、共著も『世界一ふざけた夢の叶え方』『絶望は神様からの贈りもの』など多数の著書を出版し、全国各地でセミナーを開催し、多岐にわたりご活躍されております。

さて講演では、参加者に心が幸せを感じると体の機能にも変化が起こることを体感してもらい、心と体のバランスは本来の意味で「身体」のバランスが整うこと、視点が変わることで自分だけではなく周りの他人たちまで幸せになること、視点

が変わることで苦手だった他人と仲良くなれることなど、言い表せられないほどの「そうなんだぁ！」を気づかされるような興味深い内容をお話していただきました。

講演中は笑いがあり、さらには涙する参加者の方もいるほど感動的な心打たれる内容で参加された皆さんは、熱心に先生のお話を聞いたりメモをとられていました。

今回の講演に参加した皆さんが心から健康になり、そして、より「身体」が健康になっていただけたら幸いです。

ひすいこたろう先生は多数の著書を執筆されていますので、ご興味のある方はお読み下さい。

来年度も秋ころに第18回歯科医師会市民公開講座を開催いたします。ぜひ、ご興味のある方はご参加していただければ幸いです。



原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。

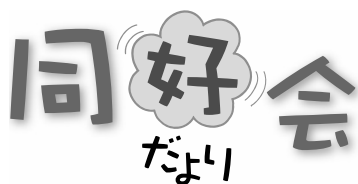
「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。

Eメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。

詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会



2年振り9回目の栄光

(社)茨城・県西歯科医師会 橋本 昭

平成28年10月6日 茨城県歯科医師会地区対抗ソフトボール大会が、土浦石岡歯科医師会主管の下、無事に行われました。

昨年のソフトボール大会におきましては、皆さまからの義援金等の温かいご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。我が県西バスターズはお陰様で、2年振り9度目の優勝を小林監督の下、成し遂げる事ができました。

わたくし個人としては、今回の優勝は格別のものになりました。

何故なら、バスターズ入部6年目にして、初のスターティングメンバーになりチームの一役を担うことが出来たことです。

ここまで来るのには、紆余曲折もありましたが、諸先輩方の温かい叱咤激励（特別強化選手）のおかげで、優勝できたことは、私にはひとしおなのです。

また、今年のバスターズは新旧入り交じったチ

ーム編成となり、また一味違った味が出たのだと思います。

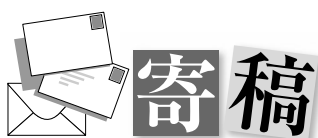
祝賀会では、恒例になりつつある、優勝カップでの祝酒があり、大いに盛りあがりました。また恒例のバスターズ反省会（吊るしあげ会）がヒートアップし、肝を冷やす場面も多々ありました。

その光景を一言でいうと、ホラーです。バスターズの先生方のハートの強さは、そういった所でも鍛錬されていると思います。それゆえに個々のパワーが融合一体となった時のチームワークは、県内随一と自負しております。

本大会では、どのチームも白球を純粹に追う先生方の真剣な熱いプレーに感動し、旨い下手関係なく清々しさを感じました。

また来年皆様が、健康でソフトボール大会でお会いできる事を楽しみにしています。

そして、このような大会が末永く続くことを願っています。



茨城県歯科医学会25周年に寄せて

理事 綱川 健一

茨城県歯科医学会が25周年を迎えるのにあたり、本学会の開設に関わった者として、本学会を維持発展せられた多くの方に感謝申し上げたい。本学会の設立当初の状況については茨城県歯科医師会創立100周年記念誌に小鹿副会長が詳しく書かれていたので、本稿ではそれ以前の学術部の状況、スタディグループの状況などについて記しておきたい。本学会開設の当初の目標は、茨城県歯科医師会主催の会員発表の場を設け、各支部からの演題を募り、臨床研修の場としていくことであった。学術部がなぜそのような結論に至ったかということについては、当時の歯科の卒後研修の状況、具体的にはスタディグループの状況を知らねばならない。

1970年以降は全国各地の歯科のスタディグループの活動が盛んな時代であった。今でも活動しているグループに横浜の丸森賢二先生主催の「横浜歯科臨床研究会」や東京の金子一芳先生の「火曜会」があるが、これらの老舗のスタディグループを目標に、水戸でも今井文彰先生が主催する「水戸歯科臨床懇談会」（以下水懇会）が会員数200人を超え、毎月一回午後7時から2時間以上茨歯会館2階の会議室に50～60人くらいの会員が集まって熱心にケースプレゼンテーションをしていた。また水懇会主催の学術講演会は、横浜の丸森賢二先生や加藤武彦先生といった雑誌によく寄稿されていた先生をお願いし、毎回100人以上の参加があ

った。なぜこれほどの参加があったかといえ、当時の県歯科医師会、支部歯科医師会主催の学術講演会と比べ、会員のニーズに良くあった内容、講師だったからである。昭和60年当時、県学術部の事業は年5回の各支部を回る学術講演会、日本歯科医師会の研修セミナー、有料研修会等、その他に各支部主催の講演会があったが、講師の選定は学術委員が講演の内容・講師を選ぶシステムで、委員の人脈に頼る事が多く、偏った講演にならざるをえなかったし、さらに日本歯科医師会主催のセミナーは講師が大学の先生が多く、魅力のある講演は少なかった。これと比べ水懇会主催の講演会は、当時注目が集まっていた講師を選ぶことが多く参加者は多かった。そのような雰囲気の中、当時の県歯科医師会学術部のメンバーの多くが水懇会に参加しており、学術部長高崎康史先生、委員長森永会長も毎回参加されていたので、ケースプレゼンテーションが臨床家にとって非常に勉強になるという暗黙の了解が学術部全体にできていたように思う。

人前でのケースプレを経験した臨床家であればお判りと思うが、人前で自分のケースを発表するためには、口腔内写真、レントゲン、その他の資料が必要であり、口腔内写真からはハイジーンのレベル、つまりその歯科医が歯周治療をどの程度やっているか、補綴の形態は問題ないか、レントゲンからは歯内療法と補綴のレベル等々、自分の

臨床を人前にさらすことは、その臨床家のレベルが一目瞭然となる。発表する者にとっては非常にきつい状況ではあるけれど、我々開業歯科医にとってはケースプレでもしなければ、自分の臨床の欠点を他人に指摘してもらう機会は全くないので、ケースプレは臨床能力の向上には必要不可欠な行為であろうと思われる。

本年6月に長野市開業で、かつてスタディーグループ『0の会』を主催されていた谷口威夫先生と話したところ、谷口先生もケースプレで他人の批判を仰ぐことが臨床家の研修に必要であると強調されていた。このような経験の共有から、県歯科医師会主催の会員発表による歯科医学会という話が学術部の中で何度か議論されていたのである。この構想が具体化したのは次の部長福田先生の時で、学術委員会の折、「企画書を出せ、上には俺が通すから。」との福田先生の一言で動き出したように記憶している。それからのことは小鹿副会長が詳しく書かれているので割愛するが、最初の3回までは茨歯会館での会員発表だけであり、参加者も年々少なくなっていく状況だった。

当時デンタルショーは夏に茨歯会館で厚生部主催で行われていたが、翌年那珂川の辺りにあったプラザホテルでデンタルショーと一緒に開催が決まり、現在の形が出来上がった。しかしホテルで開催するという形も、当初はホテル側が難色を示していた。どれだけ人が集まるかわからない会にホテルを丸一日使わせるというのは、ホテルにとっても冒険だったに違いなく、当時のホテルの担当者をなんとか説得し、結婚式のない仏滅の日曜

日を選んで開催してみれば、700人以上の参加、レストランも満杯でホテルにとっては非常に美味しい企画となり、開催当日に翌年の予約をすることになりその後は順調に推移した。

さて、そのように動き出した茨城県歯科医学会であるが、当初は企画が少なく、学術部から各委員会に企画を出してくれるように依頼していたのであるが、現在はその逆で会員から「企画が多すぎて全部出られない」という不満が出ている。費用対効果を考えれば、現在の企画の参加者は勿体無いほど少ないので、それに対する対策は考えても良いのではないだろうか。また講演会の講師の選定に関して、かつてと同じように「今度は誰を呼ぼうか?」といった安易な議論で講演会を企画するのでなく、かつて県歯、水戸支部、珂北支部、東西支部の4つの学術委員会が合同で企画したときのように、学術委員が学会誌・商業誌を読んで、この講師のこの話というところまで議論を尽くして講演会の企画をするという熱意（システム）が必要ではないかと思う。我々の経験では面識のない講師であっても、そこまで読み込んでから依頼をすれば断る講師はほとんどなかった。個人の人脈に頼るのはあまりにも安易であろう。

茨城県歯科医学会も四半世紀を過ぎ開設当時の福田部長もその年に逝去され、委員長だった入江先生も学術を去られ、当時学術委員だったメンバーの多くは前期高齢者となる。本学会をこれからも意味のある会にして行くために、若い会員の今後の活躍を期待したい。



とくにジャンルは決まっていらないのですが、 お芝居が好き

(社)東西茨城歯科医師会 館 勝成

今年9月の初めに近くの銀行の待合所で、10月1日(土)～2日(日)、水戸芸術館ACM劇場にて上演決定!という記事を見つけ両日とも観ることができました。

ルネサンス期のロンドンの劇団、この時代舞台に上がるのは男性、若い男性が女性を演じていた様です。内容は少し過激、平幹二郎演じるかつての名優シャンクは、現在演出家で徐々に時代遅れに。借金のため少年俳優スティーヴンを売り飛ばす機会にしようとシェークスピア「トロイラス(トロイの王子の名前)とクレシダ」の上演計画・・・

舞台衣装を着けてない若手俳優と平幹二郎、飛び散る汗が見える熱演、枯れることを知らないと思いました。ちなみに「からだすこやか茶」の浅利陽介演じるスティーヴンについた値段は100ポンドでした。そうです人身売買、よくあることだったようです。

ロングランだから大丈夫と思い観ることができなかった舞台もあります。

平成22年の末、乃木坂の新東京美術館で没後120年展「こうしてわたしはゴッホになった」、タイトルにひかれて見に行きました。そこで無名塾「炎の人」チラシをもらい、早く見ればよかったのですが3月11日からの東京公演まで待ってしまいました。東日本大震災により取りやめ。



再演はなかったのですが、毎年は見ない無名塾ですが、翌年3月17日～24日会場はテアトル銀座、これは2回見ました。「ホブソンズチョイス」産業革命後のロンドン、貴族階級に代わる商人たちの新興階級、その中の一人、大酒飲みの頑固おやじホブソンの三人の娘たちの婿選びです。長女役の渡辺梓と職人松崎健二が光っていました。

当たり前ですが仲代達也はホブソンでした。喜劇のはずなのに圧力がすごい。稽古期間をかけてもここまではというぐらい謳い上げられています。

次の年の老教授と女子学生の不条理劇「レッスン」怖くて直前キャンセルしてしまいました。仕事ができなくなりそうで・・・

歌舞伎も観ます。

平成24年ゴールデンウィーク中です。浅草隅田公園内に仮設?されている平成中村座、江戸時代の

芝居小屋を再現しているそうです。冬のニュース番組でホームレスの人たちに炊き出しをするシーンに少し出ていました。

歌舞伎は昼の部と夜の部で話は違いますが出る役者さんは重なります。この日は昼の部「本朝廿四孝」通称「十種香（じゅしゅこう）」上杉謙信からの追手の存在を八重垣姫が恋する武田勝頼に知らせようとする、姫に狐の霊力が乗り移り奇跡が起こる「狐火（きつねび）」中心の話です。（姫を七之助、勝頼を扇雀）女方の大役で眠気も覚めるくらい舞の場面は空気が変わります。

四変化「弥生の花浅草祭」松たか子のお兄さん染五郎が「中村座」初出演で勘九郎と共演していました。切れのある勇壮な毛振りで皆楽しみ盛り上がります。

「神の恵み和合取り組み」勘三郎が、初役で「め組」の辰五郎を演じる事。勘三郎と橋之助、鳶の頭と力士ががっぷり四つに組んで意地の張り合いの「火事と喧嘩は江戸の華」さすが黙阿弥。

「め組」の頭といえば菊五郎・幸四郎・三津五郎ですが、粋な頭の勘三郎も初中村座の梅玉さんの喜三郎も格好良く評判も上々でした。橋之助は団十郎のイメージが強すぎてかわいそうだったような。

この年の10月、新橋演舞場にて勧進帳富樫座衛門役で団十郎も見納めになってしまいました（「船弁慶」京都の顔見世興行でしたが）。踊りが上手な八十助こと三津五郎も・・・もてる順からですかと、言いたくなるぐらいでした。最近はコクーン歌舞伎をたまに見るぐらいです。

オーストリア、フォルクスオーパーのオペレッタを初めて見ました。5月の上野でシャンペン片手に喜劇版オペラ、3日通いました。

カールマンの「チャルダシュの王女」ウィーンの青年貴族とブタペストの人気歌姫との結婚、



第一次世界大戦開戦の頃の話です。

ヨハネシュトラウス2世「こうもり」大パーティーで自分の変装した妻に恋してしまいます。わたくしこれが一番好きです。

一番有名なレハールの「メリー・ウイドウ」四角関係の恋愛劇です。いずれもウィーンでは子供たちも平気で見るそうですが、日本では大人ばかりでも恥ずかしいような。

同じ会場でそういえば、4年前にメトロポリタンオペラも・・・。

新派、劇団系あるのですが、茨会会報ですのでジャンルはかなり慎重に選ばせていただきました。

今更ですが、吉右衛門、玉三郎このお二方は是非ご覧くださいませ。

次のバトンは、ひたちなか市の達人、杉先生にお渡しします。よろしくお願ひします。

私の家族

(社)茨城県つくば歯科医師会 上野 美奈子

11年近く御無沙汰しておりました。宮作先生からリレーを受けまして、今回で2回目ですが、これで最後にとっております。

私も猫の話。我が家にも10才になったかなり太目のメス猫がいます。名前はミルク。実は7年前、この子と一緒に譲ってもらった子犬を、やっと躰けたところで事故で死なせてしまったのですが、その子犬が「いちご」で、合わせて「いちごミルク」。長女の提案でした。

犬はそれまで5匹飼った経験がありましたが、猫は初めてで、とにかく珍しくて、新鮮で、可愛くて、何の知識もなく、ついつい求められる(?)! まま餌をあげた結果、標準と思われる体重4kgを軽く超えてしまいました。ある日、獣医さんで、疑問に思った猫のお腹の塊を何か?と尋ねましたら、「脂肪ですヨ!!」と言われてしまい、慌てて専用のダイエット食を与えて、2年程続きましたところ、やや減量に成功したものの、味が単調でかわいそうに思えてしまったので、それからはカロリー控え目の物になりました。現在は恐ろしくて、量るのも差し控えておりますが、抱き上げても耐えられるのは数分でしょうか。

さて、犬の経験から猫にも少し教えてみようとして、まず「お座り」を教えました。簡単でした。次に「お手」。犬が1ヶ月も掛からずに覚えることが、猫には数ヶ月から半年は掛かったでしょうか。手



の平の上に肉球を乗せるのは中々抵抗があるようで、どうにか「お代わり」までは漕ぎ着けました。更に「お預け」「お回り」も試みましたが、こちらはすぐに諦めました。

今年はいつまでも暑さが残りましたが、漸く朝夕涼しくなり、猫も膝の上に乗りたいがる程秋も深まりました。

さて、写真は7月の地元の祇園祭りに、兄一家、姉一家、私の一家が一同に集まった時のものです。地震の年で復興を願って行われましたが、翌年5月、竜巻によってこの山車も、山車の前にあった父の家も姿を消しました。父達もその後亡くなり、私達はあつまる場所を失って淋しい想いでおりましたが、去年から私の家にまた集まるようになり、賑やかに夏祭りの夜を送れるようになりました。因みに、今は更に3人の家族が増えて大賑わいです。

次は鹿行地区の田崎泰子先生にお願いしました。



先月の26日に富士山の初冠雪が発表され、それを見に翌日の27日に家内とドライブをした。その日は朝から晴れて日中は少し動く汗ばむ陽気でしたが、河口湖畔は爽やかな風が時折吹いて11月下旬とは思えない心地よい日でした。心落ち着く富士でした。

その後は、ベゴニアが見たいと言う家内の希望により、富士花鳥園経由にて新東名にて帰宅。その際、足柄サービスエリアにて、「シューイチ」の番組の中山秀征氏の番組ロケをたまたま見学することができた。中山氏の後にカメラマンも含め10人近くのスタッフがぞろぞろと移動する光景を目の当たりにし、我々は通常スタッフは一人、場合によってはドクター自らバキュームを持ちながら形成。インプラント等の外科にて、器具出しスタッフも入れても二人、頑張っても三人。この差は何なんだと思いながら、よく見ていると、カメラマン、音声マイクさん、照明さん、メイクさん、現場を取り仕切る方、その指示を中山氏に伝える方、マネジャーさん、そして収録して頂いている会社の方々かなと考えながら見ていると、10人近くなるではないか。皆必要な方々なのだと知りました。放送は11月6日の番組でされましたが、当然私は写っていませんでした。

(コスモッコ)

今年も紅葉の季節がやって来た。表紙写真の撮影を考えていると、ふと昔のことを思い出した。4年前も11月号の表紙写真担当で、紅葉の撮影を予定していたが、この年は色づきが記録的に遅く、

結局思ったような写真は撮れず終いだった。そこで、紅葉の色づきについて調べてみた。

夏場は気温が高く、雨量が多いのが良い条件だそう。今年の夏は日照時間が短かったので色づきが悪いのではないかと、との声も聞かれたが、それは秋になってからのことのように。秋は昼夜の寒暖差が激しく、湿度が低く、晴れの日が続くと良いとのこと。秋も深まり、日中は暖かくても朝晩は冷え込む日が続く、今年は期待できるかもしれない。

そして撮れたものが今号の写真。4年前よりも色づきが良く、ひと安心。紅葉に関する雑学も増え、来年以降の紅葉も違った目線で見られるかもしれない（と言いつつ来年まで覚えていない可能性が高いか）。

(古橋)

去る11月某日、JR大塚駅南口徒歩4分の所にあるライブバー「BACK BEAT」(Tel: 03-5958-0090)で、午後4時から7時まで貸し切りでライブを行いました。中学校時代に同級生3人で矢沢永吉さんのいた伝説のバンド「CAROL (キャロル)」の曲を演奏していたのですが、最近また昔のバンド仲間と会う機会があり、また昔の曲を演奏してみようという事になり、41年ぶりにバンドが復活する事となり、何か発表の場があった方がモチベーションも上がるという事で、ベース担当の友人の後輩が、大塚でライブバーを経営しているという事で、そこで演奏させてもらう事になりました。このライブバーは、楽器が揃っていて、普段は飲

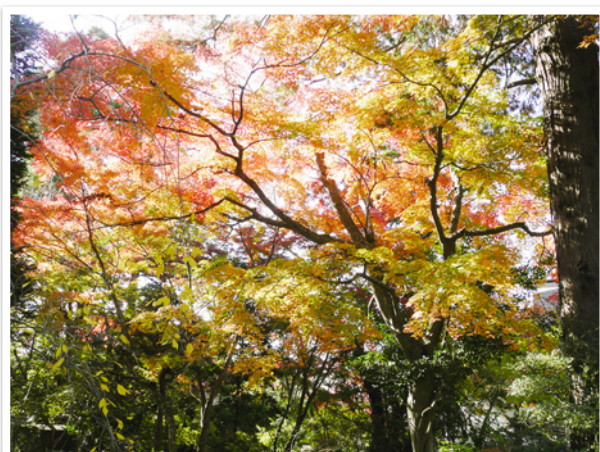
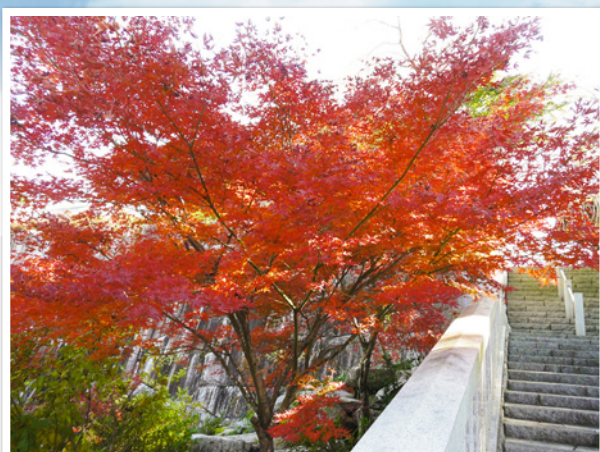
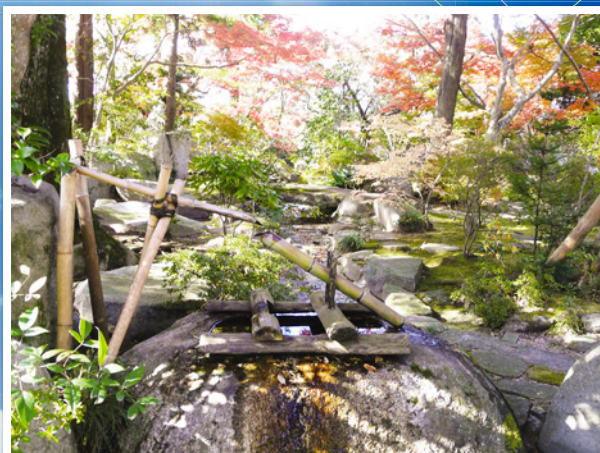
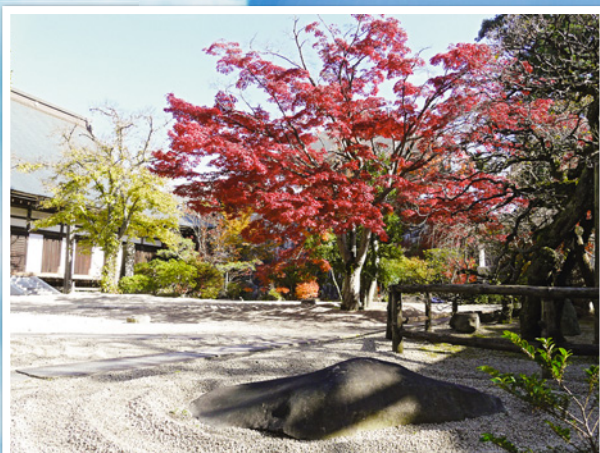
みに来たお客さんが色々なジャンルの音楽を自由に演奏できるようになっています。マスターはドラム、ベース、ギター、キーボードと何でもできます。今回は休みの日を特別に貸切として開けていただきました。約1年半前から月に一度程度練習を始め、指も動かず、なかなか上手く行きませんでした。何とかライブを開ける目途が経ってききましたが、それでも仕上がった曲は6曲しかなく、3時間は絶対に持たないという事で、私が普段、休みの日に2時間位貸しスタジオを借りて歌っている曲等を合わせて、何とか時間を埋めることになりました。ライブは2部構成で、第1部はアコースティックライブと称して、前座として私が普段演奏している曲を中心に演奏し、第2部に本番のロックンロールライブでキャロルの曲を演奏することになりました。それでも時間が余るだろうという事で、あとはもう1度聞きたい曲があったら、それらを演奏したり、最後にマスターのキーボードを入れてビートルズの曲を3曲演奏しようという事になりました。午後2時にお店に入り、セッティングをして、リハーサルを午後4時頃まで行いました。開場は午後4時で、開演は午後4時半になっていて、午後4時半になると、招待していたお客さんがほとんど見えたので、演奏を始めました。まず1曲目は、エリック・クラプトンの「Tears in heaven」、2曲目も同じくエリック・クラプトンの「Change the world」、3曲目はビートルズの「Mother nature's son」、4曲目も同じくビートルズの「Blackbird」を演奏しました。次の5曲目は、私の患者さんで、わざわざ土浦から、さだまさしさんの大ファンのご夫婦が来ていただけたという事で、密かに練習しておいた、さだまさしさんの「かすていら」という曲をサプライズで披露しました。他のお客さんは、この曲を

全く知らなかったのですが、後で話を聞くと、意外なものでこの曲が1番良かったと言われました。世の中わからないものです。そして第1部の最後に、伊勢正三さん、大久保一久さんのデュオ、「風」の「ささやかなこの人生」を演奏して終了しました。20分程休憩の後、第2部のロックンロールライブが始まりました。今までの静かな曲から一変してドラム、エレキベース、エレキギターの大量が部屋中に響き渡るような感じです。今まで練習してきたキャロルの曲を6曲演奏しました。まず1曲目は「ルイジアンナ」という曲でした。次に2曲目は「彼女は彼のもの」、3曲目は「コーヒーショップの女の娘」、4曲目は「ヘイタクシー」と、2曲目から4曲目までは私がボーカルを取りました。次に5曲目は「憎いあの娘」、最後に「ファンキーモンキーベイビー」を演奏して第2部は終了になりました。それでもまだ1時間位時間が余ったので、1部で演奏した曲のリクエストで、さだまさしさんの「かすていら」と風の「ささやかなこの人生」をもう一度演奏し、最後にマスターをキーボードに迎え、ビートルズの「Don't let me down」、「Get back」、「Let it be」を演奏して終了となりました。最後の3曲は、当日のリハーサルで少し合わせただけで、ほとんどぶっつけ本番の様な感じでした。お客さんも皆さん喜んで帰って行かれたので、まあまあ上手く行ったかなという感じでした。ライブが終了してから、午後9時位までベース担当の友人の他のバンドの仲間や、楽器の弾ける人たちと一緒にセッションを楽しんで帰りました。これからもしできれば好きな曲を定期的にライブで発表できたらいいなと思っております。

(勝)

みんなの写真館

Photo
Gallery



(社)茨城・県西歯科医師会 古橋 仁

会 員 数

平成28年10月31日現在

支 部	会員数(前月比)
日 立	123
珂 北	138
水 戸	155
東西茨城	74
鹿 行	105
土浦石岡	172
つ く ば	122
県 南	174
県 西	152
西 南	106
準 会 員	1
計	1,322 ±0

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

1種会員 1,148名
2種会員 41名
終身会員 132名
準会員 1名
合 計 1,322名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 28 年 11 月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 征矢 亘



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。